

科目名：臨床基礎統合ゼミ		選必	2 単位 (90 時間)
(Integrated seminar of basic dentistry and clinical dentistry)			
履修年次/時期：3 年次 後期		授業形態：講義	
主担当教員：長谷 徹（歯科医師の実務経験 40 年有：保存治療の指導医(専門医)としての見識と経験を中心に、臨床歯科医学とその土台となっている基礎歯科医学の総合的な融合を図ることで、学生にとってこれまでの 2 年半の勉学が有意義なものとなるようなゼミを実施します。）			
担当教員：西村康、角田晃、戸田真司、山本裕子、井出桃、関端麻美			
学修目的	これまで学んだ歯科衛生士になるための知識とスキルの集大成が目的であり、このゼミで学ぶことにより歯科衛生士国家試験を合格できる実力が確保されることが目的です。歯科医学の基礎、臨床基礎学、治療学へと繋がる一連の学問体系の中で、臨床実習で体験した経験を踏まえて歯科衛生士に必須の知識を再度学ぶことで、それらの必要性を改めて認識し、さらに整理・総まとめを行うことで個々に理解した知識・技術を有機的に関連付け、臨床に有用な知識・技術へと着実強固に発展させることを目的としています。 CP：2、3に関連する。科目 No. S3D14S11		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○
	3. 口腔の健康支援を通し、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	
		(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP			
到達目標	1. 歯科医学の基礎分野について整理し、臨床につなげられる。 2. 臨床基礎学の分野について整理し、臨床につなげられる。 3. 歯科衛生士業務系分野について整理し、臨床につなげられる。 4. 臨床歯科医学の分野について整理し、臨床につなげられる。		
授業概要	歯科医学の基礎、臨床基礎学、治療学へと繋がる一連の学問体系の中で、臨床実習で体験した経験を踏まえて歯科衛生士に必須の知識を再度学修することでそれらの必要性を改めて認識し、さらに整理・総まとめを行うことにより、個々に理解した知識・技術を有機的に関連付け、臨床に有用な知識・技術へと着実強固に発展させることを目的とする。		
評価方法	毎月行う確認試験と模擬試験、単位認定試験の結果をもとに総合的に評価します。 試験に対するフィードバックは解説を行います。		
予習・復習時間	【予習】2.0 時間 【復習】2.0 時間		
教科書	年度別歯科衛生士国家試験問題集（医歯薬出版）		

参考書	「直前マスター」シリーズ（医歯薬出版） ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策①～⑤（医歯薬出版）
お問い合わせ 連絡先	長谷：月・水・金 12:10～12:50、16:00～17:30 nagatani@kdu.ac.jp 4号館 2F 長谷研究室・臨床基礎統合ゼミ準備室 西村：月・水・金 12:10～12:50 nisimura@kdu.ac.jp 4号館 2階 西村研究室 角田：月～金 16:30～17:00 tsunoda@kdu.ac.jp 4号館 2階 角田研究室 戸田：月～金 12:10～13:00、16:30～17:00 toda.s@kdu.ac.jp 4号館 2階 戸田研究室 事前にメール連絡をいただくと円滑に対応できます。 山本：月～金 16:20～17:00 yamamoto.yuko@kdu.ac.jp 3号館 2階 山本研究室 井出：月～金 16:30～17:00 ide@kdu.ac.jp 3号館 2階 井出研究室 関端：月～金 16:30～17:00 sekibata@kdu.ac.jp 3号館 2階 教員研究室 *不在時はメールをお願いします。

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (/)	基礎歯科医学と臨床歯科医学の有機的統合を目指し、実力確認試験の実施	[予習]過去のノート、プリント等に通しておくこと。 [復習]理解できなかった部分を自分で調べること。 このほかに、随時掲示します	講義 ○長谷 ○西村 ○角田 ○戸田 ○山本 ○井出 ○関端
2 (/)	臨床に必要な基礎的知識 1 (解剖学)	顎を中心とした口腔の骨格系を理解する。	//
3 (/)	臨床に必要な基礎的知識 2 (解剖学と生理学)	口腔の生理学的動きを理解する。	//
4 (/)	臨床に必要な基礎的知識 3 (組織と病理学)	口腔の組織とその疾患について理解する。	//
5 (/)	臨床に必要な基礎的知識 4 (生化学と薬理学)	代謝の過程を生化学的に理解する。	//
6 (/)	臨床に必要な基礎的知識 5 (微生物学と免疫学)	う蝕と歯周病の病因を細菌学的に理解する。	//
7 (/)	臨床学の裏付けとなる知識 1 (口腔衛生学 1)	口腔衛生学の大系を理解する。	//
8 (/)	臨床学の裏付けとなる知識 2 (口腔衛生学 2)	フッ素を中心とした予防衛生を理解する。	//
9 (/)	臨床学の裏付けとなる知識 3 (衛生学・公衆衛生学)	公衆衛生の基本と実践を理解する。	//
10 (/)	臨床に必要な知識 1 (歯科診療補助論)	歯科診療補助論の実際とその理論背景を学ぶ。	//
11 (/)	臨床に必要な知識 2 (歯科予防処置論)	歯科予防処置論の実際とその理論背景を学ぶ。	//
12 (/)	臨床に必要な知識 3 (歯科保健指導と栄養指導)	歯科保健指導論の実際とその理論背景を学ぶ。	//
13 (/)	臨床に必要な知識 4 (歯科臨床大要 1)	保存歯科治療を中心とした診療技術の理論と実際を理解する。	//
14 (/)	臨床に必要な知識 5 (歯科臨床大要 2)	補綴治療を中心とした診療技術の理論と実際を理解する。	//
15 (/)	まとめ		//